

要 旨

道徳の時間の目標である道徳的実践力の育成のためには、児童が自分の考えをもち、少人数での話し合いを通してその考えを深めていくことが重要だと考えた。そこで本研究では、2つの価値葛藤を通した授業の中で、道徳的価値に対する児童の考えを深めさせるため、児童の道徳的価値判断や理由の違いを基にペアの組み方を工夫して、話し合い活動に取り組みさせた。その結果、道徳的価値に対する考えが深まった記述をしたり、話し合いの中で得た友達の考えを取り入れた記述をしたりする児童が多く見られるようになった。

〈キーワード〉 ①道徳的価値に対する考えの深まり ②ペアでの話し合い ③振り返り
④記述の変容

1 研究の目標

小学校道徳において、児童が道徳的価値に対する自分の考えを深めるために、少人数での話し合いの場の工夫を通して、授業の中で児童の道徳的実践力を育成するための指導の在り方を探る。

2 目標設定の理由

道徳の時間の目標として、道徳的実践力の育成が挙げられる。この道徳的実践力とは、「人間としてよりよく生きていく力」¹⁾であり、児童が将来出会うであろう様々な場面や状況において、道徳的価値を実現するため、適切な行為を選択するための素地となるものである。人とかかわりが希薄になってきている現代において、このねらいに近づくためには、互いの考えを伝え合う活動が必要だと考える。この活動の中で児童は、自分の考えを伝達する力だけでなく、他者の考えを聞くことで、それを理解しようとする力を身に付けることができる。だからこそ、道徳の時間において、児童が自分の考えをもち、その考えを互いに伝え合い、道徳的価値に対する考えを深める学習が必要だと考える。道徳的価値に対する自分の考えを他者に伝える場面を設定することで、自分と似ていたり異なったりする考えを児童が新たな考えとして取り入れることで、自分の考えをより深めさせることができる。さらに、人とかかわる場面を増やすことで、他者に対する理解を深めさせることができる。この学習を繰り返すことで、児童の道徳的実践力を育成するだけでなく、コミュニケーション能力も育成することができ、ひいてはよりよい生活を築こうとする力をはぐくむことにもつながるのではないかと考える。

そこで、道徳的価値に対する自分の考えを深めさせる中で、児童の道徳的実践力が育成できるような、少人数での話し合い活動を設定することの有効性を探っていきたいと考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

小学校道徳において、道徳的価値に対する互いの考えを活発に交流させるため、少人数での話し合いの場での支援の工夫をすれば、進んで自分の考えを伝えることができるようになり、道徳的価値に対する自分の考えをより深めることができるであろう。

4 研究の内容と方法

- (1) 児童の道徳的価値に関する調査と分析
- (2) 話し合い活動を取り入れた道徳授業の先行事例及び文献や理論を基にした理論研究
- (3) 仮説を確かめるための所属校の3年生における授業実践及びワークシートの分析

5 研究の実際

(1) 研究の全体構想

道徳の時間は、道徳的価値に対する自分の考えを、話し合いの中で深め合うことができる。しかし、自分の考えをもっているものの、全体では発言しづらいと感じている児童がいることも考えられる。そこで、どの児童も発言しやすいように、少人数での話し合い活動を設定し、その話し合いの形態を工夫する必要があると考えた。誰もが発言する機会を保障するだけでなく、様々な他者の考えに触れさせたり、これまでの自分を振り返ったりすることで、道徳的価値に対する児童の考えをより深めさせることができる。また、児童が他者と考えを交流する中で、自分の考えを他者に聞いてもらいたいという意欲も高められると思われる。図1に示すように、少人数での話し合いの形態の工夫を通じた他者とのかわり、また、少人数や全体での話し合い後に、児童がこれまでの自分を振り返ることで、道徳的価値に対する児童の考えを深めることができると考えた。

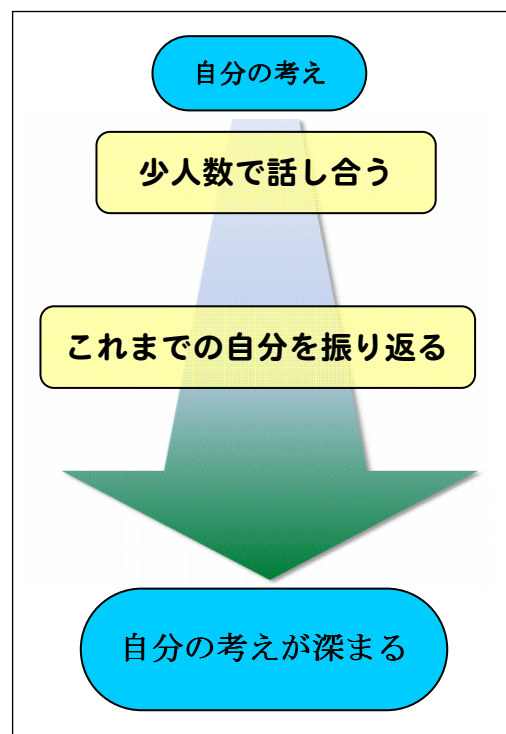


図1 研究の全体構想

(2) 手立てについて

本研究では、モラルジレンマを扱った資料を用い、検証授業を行った。モラルジレンマとは、1つ若しくは2つ以上の道徳的価値の間で生じる当為（正にあるべき姿，行為）を巡る葛藤であり、その授業のねらいとして荒木紀幸は、「集団討議によって解決に導く過程を通して、児童・生徒一人一人の道徳的判断力を育成し、道徳性をより高い発達段階に高める」²⁾ことを挙げている。そこで、検証授業では、研究の全体構想などを踏まえながら、以下のような手立てを講じた。

ア 進んで自分の考えを伝えようとする場の工夫

道徳の時間に進んで発表できるかについて事前にアンケートを採ったところ、図2に示す通り、クラスの半数近くの児童が「余り当てはまらない」「全く当てはまらない」と答え、全体で自分の考えを発表することに抵抗があることが分かった。その理由として表1に示すものが挙がり、児童が自分の考えを発表することに自信がないことがその要因として考えられた。そこで、児童が安心して発表でき、かつ、発言機会も保証できるよう、少人数での話し合いをペアで行わせる。その際、表2に示すことに留意させ、発表しやすい雰囲気作りに努めた。検証授業の4時間を通し、ペアでの話し合いで自分の考えを伝えることに自信をもたせ、発表することに対しての意識の高まりを見取ることにした。

イ 道徳的価値に対する児童の考えの深まり

ペアによる話し合いを有効に活用するため、1つの資料に対し、2時間で授業を組む。検証授業は2時目に行い、1時目に児童が選んだ道徳的価値とその理由についての記述を基に、少人数や全

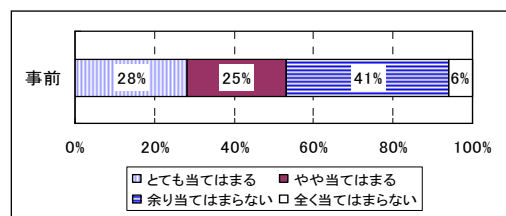


図2 「道徳の時間に進んで発表できるか」(事前のみ)

表1 図2で進んで発表できない理由

- ・ 緊張してできない
- ・ 言いたいことがあっても、友達に発表されてしまう
- ・ 本当は知ってもらいたいが、発表するのが恥ずかしい

表2 ペアでの話し合いの約束

- ・ 声に出して、互いの考えを伝え合おう
- ・ 友達の意見は簡単にメモを取ろう

体での話し合いを行った。

また、道徳的価値に対する児童の考えの深まりは、表3のような価値分析表を基にワークシートの記述の変容で考察する。この価値分析表とは、コールバーグの3水準6段階の道徳性発達段階に基づいたものであり、検証授業ごとに作成した。

ペアでの話し合いは、児童が考えを広げられるよう、選んだ道徳的価値が同じか異なる他者と、それぞれ少なくとも2人ずつという条件で話し合わせた。その中でも検証授業の第2時と第3時は、教師が話し合わせる相手を意図的に組んだ場合、道徳的価値に対する児童の考えをより深められるのではないかと考え、表4のような組み方の基、話し合いを行わせた。そこで、ワークシートの児童の記述の変容から、教師が意図的にペアを設定した場合における道徳的価値に対する児童の考えの深まりが有効であったかを見取った。

ウ 道徳的価値の自覚を深めさせるための振り返り

少人数や全体での話し合いの後、児童が得た道徳的価値に対する考えを、自分のこととして自覚できるよう、振り返りを行わせた。検証授業ごとに扱った道徳的価値に関するキーワードを基に、表5に示すことに留意しながらワークシートに記述させ、児童の道徳的価値の自覚の深まりを見取った。

(3) 授業の実際と検証の視点の考察

先に述べた手立ての有効性を確かめるために4時間の授業実践を行った。授業における資料名と検証の視点は、表6に示す通りである。以下に、授業実践の結果と考察を述べる。

表6 授業実践と内容項目及び検証の視点

授業実践(4時間)		検証の視点		
		I 自分の考えを他者に伝えようとする意識の高まり	II 少人数での話し合いの有効性	III 道徳的価値の自覚を深めるための振り返り
第1時	「友達の誕生日にて」 (改作資料)	○	○	○
第2時	「目の見えない犬」 (学研3年)		○	○
第3時	「絵はがきと切手」 (学研3年)		○	○
第4時	「しか退治」 (「モラルジレンマによる討論の授業」 明治図書)	○	○	○

ア 自分の考えを他者に伝えようとする意識の高まり (検証の視点I)

検証授業の第1時と第4時は児童に自由にペアを組ませ話し合わせた。その際、話し合った相手の名前とその考えをワークシートに記入させ、その人数の変化を見取ったところ、図3に示すように、6人以上の友達と考えを交流した児童の割合が大きく上昇している

表3 検証授業第2時における価値分析表

もう一度お願いする(a)	別の場所で飼う(b)
段階0【自己欲求希求志向】	自己中心的
犬が好きだから 子犬がかわいそう	ばねなければよい 文句を言われない
段階1【罰回避・従順志向】	大人や権威に無条件に服従
子犬が死んだら呪われるかも 生き物には優しくしなければ	お母さんが怒っている 団地の決まりだから
段階2【自己本意志向】	利己主義
そばで飼った方がお世話をし やすい	別の場所で飼っているうちに 飼い主が見つかるかもしれない
段階3【よい子志向】	利他主義
子犬の命にかかわるので、飼 う方が大切	団地でよりよい生活をするた めの決まりだから、その決まり を守る方が大切

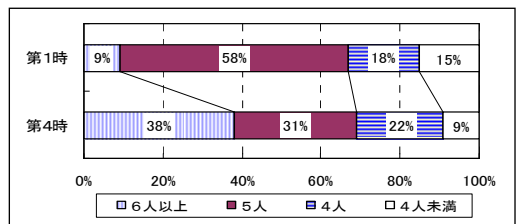
表4 教師が意図的に設定したペア

	選んだ道徳的価値	記述した理由の段階
1人目	同じ	近い
2人目	同じ	離れている
3人目	異なる	近い
4人目	異なる	離れている

表5 振り返りの際のポイント

- ・ 授業で扱った道徳的価値に関するキーワードを基に、これまでの自分を振り返る。
- ・ 学習したことをこれからの生活でどのように生かすかを考える。

図3 検証授業第1時と第4時での考えを交流した人数の変化



ことが分かった。一方、4人、若しくは4人未満の友達と考えを交流した児童の割合の変化が、それほど見られなかった。そこで、児童にその理由を聞いたところ、「友達の理由に質問していたため、時間が足りなかった」という声が聞かれた。このことから、人数が増えたという量的増加だけでなく、質的な高まりもうかがい知ることができた。

また、検証授業の事後に、「道徳の時間に進んで発表できるか」と尋ねたところ、図4に示す通り、事前の結果と比べて大きな変化は見られず、全体の場合に進んで発表することには必ずしもつながっていない。一方で、「道徳の時間は楽しいか」について、質問紙法で意識の変容を見取った。その結果、図5にもあるように、「とても当てはまる」と答えた児童が、事後では77%にも上った。その理由として表7に示す通り、「友達と話したり、意見を聞いたりできるから」などのように、ペアでの話し合いを理由に挙げたものが多く見られた。このことから、ペアでの話し合いは、自分の考えを他者に伝えようとする意識を高めることに有効であったといえる。

イ 少人数での話し合いを通しての道徳的価値に対する児童の考えの深まり（検証の視点Ⅱ）

検証授業では、資料の葛藤場面における主人公が取るべき行為について、話し合いの前後に児童が選んだ道徳的価値及びその理由をワークシートに記入させ、その記述の変容で、道徳的価値に対する児童の考えの深まりを見取った。

検証授業第2時での児童の記述を見ると、16名の児童に理由の段階の高まりが認められ、表8に示す通り、2回目の判断では、特に段階2の記述をした児童が増加していることが分かる。

図6-1の児童は、1回目の記述では「他の団地（場所）で飼ったら（餌やりなど）行くのを忘れる」と、その理由を書いていた。これは、表8における（a）の段階2に当たるものである。この児童は5人の友達とペアでの話し合いを行い、この中の「団地の人」が反対しているから他の所で飼う」という理由を取り入れ、2回目の記述では、「団地の人」が怒ったりすると、その理由が変容している。これは、表8における（b）の段階1に当たる記述である。

この児童の場合、理由の段階は下がっている。しかし、友達の様々な考えを聞くことで、より広い視

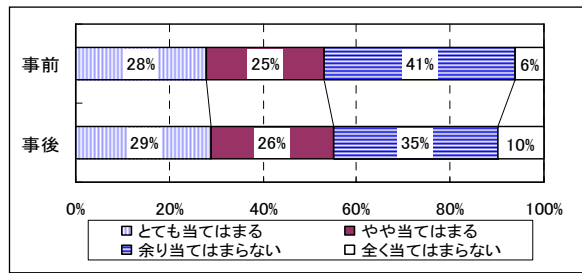


図4 「道徳の時間に進んで発表できるか」

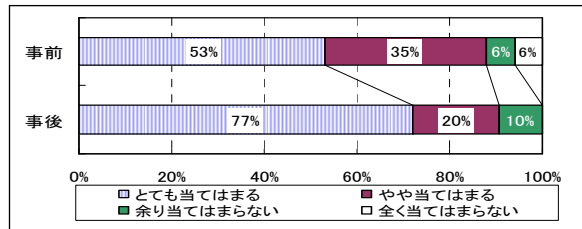


図5 「道徳の時間は楽しいか」

表7 図5で道徳が楽しいと答えた理由

- ・ 友達と話ができるから
- ・ 友達と話したり、意見を聞いたりできる
- ・ 友達と意見を発表できるから
- ・ いろいろな人の意見を聞けるから
- ・ いろいろな人と仲良くなれる

表8 検証授業第2時における児童の記述の変容

1回目の児童の記述（33人中）

	(a) 飼えるよう、もう1度お願いする(人)	(b) 別の場所で飼う(人)
段階0	7	4
段階1	3	8 (図6-2児)
段階2	6 (図6-1児)	5
段階3	0	0

2回目の児童の記述（32人中）

	(a) 飼えるよう、もう1度お願いする(人)	(b) 別の場所で飼う(人)
段階0	4	2
段階1	1	1 (図6-1児)
段階2	10	12
段階3	1	1 (図6-2児)

目の見えない子犬 出せ番号()

1 この二人は、目の見えない子犬をかえるように、もう一度、団地の人にお断りをした方がいいのでしょうか。それともお断りした方がいいでしょうか。それともお断りした方がいいのでしょうか。

わたしは、[(a) もう一度お願いしたい方がいい (b) 断りしてもいい (c) 断りた方がいい] と思います。

その理由は、ほかの団地でかたらいのをお探る。

と断うからです。

2 友だちの考えを聞いてみよう。

友だちの名前	友だちのぼうしの色	友だちが考えた理由 (かんたんにメモを取ろう)
◎	白	じぶんがかたいから
◎	白	あしかかたほうないつこもかたれた
◎	白	たふちいかたはかえは(り)
◎	白	団地の人か反すしているが(り)

3 この二人は、目の見えない子犬をかえるように、もう一度、団地の人にお断りをした方がいいのでしょうか。それとも断り以外の別の場所がかた方がいいのでしょうか。

わたしは、[(a) もう一度お願いしたい方がいい (b) 断り以外の別の場所がかた方がいい] と思います。

その理由は、団地の人かお断りする人がお断りする(り)。

と断うからです。

図6-1 児童のワークシートの記述

他の2回に比べ、記述が変容した児童が多く見られる結果となった。このことから、教師の方で意図的にペアを設定した話し合いは、道徳的価値に対する児童の考えを深めることに有効であったのではないと思われる。

また、児童の意識の変容について、図7に示す通り、自分の考えを聞いてもらうことが楽しいと感じている児童が77%に増えていた。

少人数で話し合わせるよさは、少ない人数だからこそ、自分の考えを伝えられる点である。全体での話し合いとは違い、少人数での話し合いは、すべての児童に発言する機会を保障している。さらに、ワークシートの記述やアンケートの結果も踏まえ、少人数での話し合いを道徳に取り入れることは、児童の考えを伝えようとする気持ちを高めるだけでなく、少人数の組み方の工夫で、道徳的価値に対する児童の考えをより深められると思われる。

表11 少人数での話し合いがワークシートの記述の変容につながった児童の数（33人中）

	ワークシートの記述が変容した児童 (人)
第1時	6
第2時	10
第3時	13
第4時	9

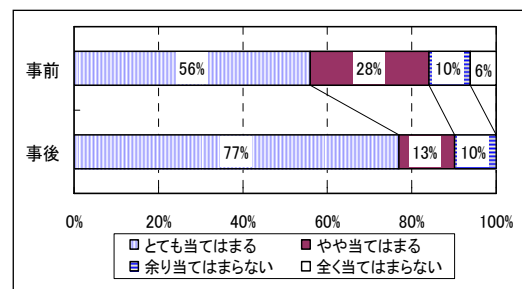


図7 「友達に自分の考えを聞いてもらうことはうれしい」

6 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

ア ペアでの話し合いは、自分の考えを伝えようとする児童の意識を高めることにつながるがあった。

イ 教師が意図的に設定したペアでの話し合いは、児童の道徳的価値に対する考えを深めることに有効である。

ウ 授業で扱った道徳的価値をキーワードとして用いた振り返りは、児童に生活と関連付けて道徳的価値を意識させることに有効である。

(2) 今後の課題

ア 資料に価値葛藤がない場合でも、教師が意図的に設定したペアでの話し合いが、児童の道徳的価値に対する考えを深めることに有効であるかどうかを研究する必要がある。

イ 全体での話し合いにおいて、児童が自分の考えを伝えようとする意識を高められる手立てを更に研究していく必要がある。

ウ 児童の道徳的価値に対する自覚をもっと深められるような振り返りの手立てを、今後、研究していく必要がある。

《引用文献》

- 1) 文部省 『小学校指導要領解説—道徳編—』 平成11年 大蔵省印刷局 p. 27
- 2) 荒木紀幸編著 『続 道徳教育はこうすればおもしろい』 1997年 北大路書房 p. 156

《参考文献》

- ・ 荒木紀幸編著 『モラルジレンマによる討論の授業 小学校編』 2002年 明治図書
- ・ 荒木紀幸著 『モラルジレンマで道徳の授業を変える』 2007年 明治図書
- ・ J. ライマー編著 荒木紀幸監訳 『道徳性を発達させる授業のコツ—ピアジェとコールバーグの到達点』 2004年 北大路書房